

青葉通駅前エリアのあり方検討協議会
第4回ワーキンググループ 議事概要（利活用編）

日 時 令和3年12月1日（水）14:00～16:30
会 場 仙都会館階会議室
議 題 利活用編：エリアづくりの視点について
配布資料 次第

【資料A】 本日の座席表

【資料1】 青葉通駅前エリアのあり方検討協議第4回ワーキンググループ（利活用編）

1. ビジョン策定までのプロセス、これまでの協議会・WGの内容整理
2. 第3回利活用WGの振り返り
3. これまでの意見
4. エリアづくりの視点作成に向けて
5. 社会実験の目的
6. 12/22 第5回 利活用WG内容（案）

○主な意見等

【エリアづくりの視点作成に向けて】

- ・これまでの協議であがってきた意見（資料1、P15～P17）は、重い意見として受け止める。ただし、これだけですべてということではなく、協議として積み上げてきた下地には、青葉通まちづくり協議会のまちづくりビジョンなども含まれているため、それも追加してほしい。
- ・エリアづくりの3つの視点について、捉え方を変えてまちづくりの中で重要なこととして、以下のように考えている。
 - 「かたち」（どのような建物・公共空間をつくるか）
 - 「なかみ」（その建物・空間をどのような施設にするか）
 - 「しくみ」（それらを維持していくための仕組み）
- ・今はなくとも将来的には必要だと思われるものについて、何らかの事を起こすことでエリアの価値を向上させるような化学反動的なことが起きるのではないかと考える。
- ・青葉通でも化学反応を起こすことで、何か新しいものが生まれるのではないかと期待しており、その手段の1つとして今回の道路空間の利活用があると思う。そうした内容がまちづくりの視点として反映されればよいのではないかと考える。
- ・年に1度実施している歩行者の通行量調査では東西自由通路の通行量が圧倒的に多く、今回のまちづくりの効果として、青葉通に人を集めることで、仙台駅から青葉通、中央通、一番町等のまちなかへスムーズに楽しみながら移動し、都心全体の人の流量があがることを期待している。

- ・各論に入っていくと、使い方をどうするのかという議論になってしまうため、提示されている内容にエッセンスを加えることを考えていきたいと感じた。
- ・若い人の意見ももらいながら、どのようなまちづくりが良いか考えていくべき。
- ・第2回WGにて、例えば500m以上人が歩いていないというデータが提示されてきたように、人が歩くことを頼りにしている部分がある。こうしたことを踏まえると人を動かすための道具立てが必要なのではないか。
- ・「大型ショッピングセンターでは得られない空間や体験」については、その場でないと体験できない、その場にしかない空間、その場を訪れないと得られない場所であるということが重要と考える。また、都心全体への回遊や広がりにつながる視点であり重要であるため、具体的な内容については今後検討していくべきである。
- ・特に子供や孫と出かける際は、中心部ではなく自宅から自家用車で大型ショッピングセンターに出かける市民も多いのではないかと思う。そうした人が移動しやすくなるなど、都心部全体を考えた際に青葉通駅前エリアがどのような役割を果たすべきか考えることが必要ではないか。
- ・青葉通に人が行きたいと思えるようなものを創出していく必要があると考えていくべき。具体的にどのようなものを創出していくかについては、若い層や通勤者など様々な層をターゲットに意見を引出しながら検討すべき。
- ・単に広場化ということではなく、賑わいを取り戻すために空間をどう活用するかが重要。
- ・広場化は物理的なものだけでなく、心を1つに集めるような場を用意することも必要である。そのような心理的なコアが今の仙台には欠如しており、特に七夕、花火の規模縮小が典型的である。「何をするか」と「誰がやるか」が重要である。
- ・リーダーシップを取る団体が少なくなってきたため、ワーキンググループメンバーが強固な信念を持って進めないといけない段階に来ているのではないか。行政や商工会だけが単独で努力してもうまくいくかは分からず、そうした点は悩みどころではあるが、少なくとも物理的な場については整備する必要があると思う。
- ・今回の検討結果を踏まえて実行に移す際の体制づくりを検討すべき。
- ・仙台駅東口では、大型ショッピングセンターの整備や電動キックボードの導入などが計画されている。こうした動きに加えてショッピングセンターの整備がさらに進んでいくと、仙台駅周辺での人の流動がより強固なものになると考えられる。
- ・仙台駅周辺で人の動きが完結してしまうようになると、長期的には鉄道沿線に居住する人が増え、バスやタクシーを利用する人も減少することが考えられる。
- ・仙台駅中心、鉄道中心になっていくことは今の社会の方向性としては望ましい形ではあるが、まち全体で考えたときに、魅力ある仙台の中心市街地に繋がるのかは不安である。

【社会実験について】

- 最も大事なことは、経済活動の中で青葉通駅前エリアは目で見える発展があまり見られないことである。仙台駅は投資をすることで賑わいを創出し、人を集めている。また、東西自由通路では拡幅をすることで人の流動性を向上させている。これらを踏まえ、実験について強く焦点を当てる必要があるのではないか。
- 今回の件はいわば現状変更の試みであり、現状変更にはいろいろな意見が出てくる。ワーキンググループに参加していない、まちを利用する人々がどう捉えるかが重要であり、そうした方々の意見を拾い上げてもらいたい。
- 勇気を持って現状変更を進めていただくとともに、その結果の声を様々な層からより多く拾い上げていただきたい。
- 実際にどのようなことを実行していくかは、社会実験を含めて大胆なことをやらない限りは、仙台駅周辺から人を引っ張りだしてきてまち全体を発展させる方向に繋がらないのではないかと危惧している。
- 社会実験に際して実施する調査の内容はどこまで検討しているのか。

以 上